表32　都道府県別登録希望者　N＝1530

都道府県別	人	(%)
北海道	5	(2.3)
山形	1	(0.5)
宮城	3	(1.4)
茨城	4	(1.8)
埼玉	15	(6.9)
千葉	12	(5.5)
東京	29	(13.3)
神奈川	17	(7.8)
山梨	2	(0.9)
新潟	1	(0.5)
長野	3	(1.4)
岐阜	2	(0.9)
静岡	4	(1.8)
愛知	7	(3.1)
石川	2	(0.9)
福井	3	(1.4)
三重	3	(1.4)
京都	2	(0.9)
大阪	32	(14.7)
奈良	3	(1.4)
和歌山	2	(0.9)
兵庫	9	(4.1)
岡山	3	(1.4)
広島	6	(2.7)
鳥取	1	(0.5)
島根	1	(0.5)
山口	1	(0.5)
香川	2	(0.9)
愛媛	1	(0.5)
徳島	3	(1.4)
福岡	7	(3.1)
大分	6	(2.7)
宮崎	1	(0.5)
鹿児島	1	(0.5)
沖縄	15	(6.9)
地域不明(E-mailのみ)	9	(4.1)
登録希望者合計	218	(100)

調査のお願い

寒冷の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

いかがお過ごしでしょうか。

さて、昨今、診療所に助産師が就業していない等で、分娩期における内診の問題が浮かび上がり、日本産婦人科医会では看護師による分娩経過観察（内診）を可とする特別措置に関する要望書が出されております。これらは分娩時に助産師がいなくてもよい状況にあり、安全で快適な出産を目指している国の施策に反することでもあります。

このような中、平成 17年度厚生科学研究費補助により「助産ケア提供システムに関する研究」（主任研究者：神奈川県立保健福祉大学　加藤尚美）がなされており、その一部として、助産師の就業実態調査を希望しております。なお、結果については報告書および助産師関連学会に公表すると同時に、潜在助産師の就業促進や助産師業務を担う助産師の就業の場について施策に反映できるよう提言する予定だということです。

本学においても、現在の状況に鑑み、これらの調査に協力することは重要であると考え、卒業生に対して協力をお願いする所存です。

つきましては、以下の質問にお応え頂き返信してください。

なお、本調査内容で記入を希望しない場合はお書き頂かなくて結構です。ご協力をお願いします。　　謹白

平成 18 年 2 月 20 日までに返信くださいますようお願いします

以下の質問に対してあてはまるものに○または（　）に記入してください。

〔問 1〕助産師取得年は何時ですか（昭和・平成　　年）

〔問 2〕あなたは現在就業されていますか

1．常勤で就業（病院　診療所　助産所　行政機関　看護教育機関　その他　　）

（1.を回答された方は、下記にお答えください）

1)病院で就業している方は番号を○で囲み、主な業務を記述してください。

①産科棟のみ(主な業務内容：

②混合病棟（産科外の病棟名：

(主な業務内容：

2)診療所(主な業務内容：

3)行政機関（行政機関名：

(主な業務内容：

4)看護教育機関（該当機関に○で囲んでください）

①看護系大学　②看護短期大学　③助産師学校　④看護専門学校　⑤その他

（就業されている方はこれで終わりです。有難うございました）

2．パートで就業している

①病院　②診療所　③助産所　④行政機関　⑤看護教育機関　⑥その他）

（2.と回答された方は、問5にお進みください）

3．働いていない・・（3に答えた方は次ページ問3にお進みください）

〔問3〕就業をやめたのは何時ですか、就業をやめて何年経ちますか

（就業をやめた年　　年　就業をやめて　　年）

〔問4〕就業をやめた理由をお書きください

（　　）

〔問5〕今後、助産師として常勤の就業を希望しますか

1. はい・・・・・・・問6番にお進みください

2. いいえ・・・・・・その理由は（　　）

〔問6〕何時ごろから就業したいと考えておりますか

1.2006年4月　2.2007年　3.2008年　4.2009年　5.その他（　　）

〔問7〕診療所からの求人があった場合希望しますか

1. はい　2. いいえ

〔問8〕将来に向けて診療所等への就業促進のため、助産師向けの登録システムを考えておりますが、その場合は登録をしていただけますか。

1. はい　2. いいえ

1.のお答えの方は以下に氏名連絡先等を記入ください。

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

TEL&FAX＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

その他

就業する場合の条件や希望がありましたら記入ください。

なお、本登録を希望された皆様の名簿は登録カードにし、研究者の管理下におき個人情報として慎重に管理いたしますことをお約束します。今後システムとして動き出す時は、連絡を差し上げ皆様から再度同意を得るという手続きをします。したがって、本調査において名簿等作成して公表するようなことはしません。

ご協力有難うございました。

本調査に対する問い合わせは以下にお願いします。

TEL：046-828-2608　FAX：046-828-2609　e-mail　kato-n@kuhs.ac.jp

神奈川県立保健福祉大学　看護学科　加藤尚美

厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)
分担研究報告書

助産ケアの提供システムに関する研究

潜在助産師研修会の評価及び診療所への就業意向調査

分担研究者　　加藤尚美　神奈川県立保健福祉大学　教授

研究要旨

平成17年度日本助産師会は厚生労働省からの補助金を受け、潜在助産師に向けて研修会を開催した。福岡、大阪、福島、東京の4箇所の会場で連続3日間の研修会に参加した209人を対象に診療所就業に対しての意向調査を行い166人(回収率79.4%)から回答を得た。出席者の年齢は幅広く24～73歳であった。参加者は市町村での訪問活動を行っている者やパートで働いている者も参加しており、様々な意見交換ができ助産師間で話し合いが持てた。研修会後の方向性としては、診療所・産婦人科医院等への就業を回答者166人のうち68人(48.9%)が考えていた。参加者は今後の就業について真剣に考え助産業務を行いたいと述べている。また、今回行われた研修会のプログラムは概ね満足された研修であった。また、今後希望する研修内容は実技に関わることも多く希望していた。

研究協力者

山岸　由紀子　日本助産師会事務局研修担当
島村　克子　日本助産師会事務次長
江角二三子　日本助産師会事務局長
金　寿　子　開業助産師

A．研究目的

平成17年度行われた研修評価ならびに診療所就業への意向を調査することを目的とした。

B．研究方法

全国４ヶ所の会場(福岡・大阪・福島・東京)で行われた「潜在助産師研修会」の参加者209人を対象にアンケート調査を実施した。調査内容は、対象者の属性、休業年数、研修会参加の動機、就業希望(常勤・非常勤)の有無、今回の研修会の満足度、登録の名簿記載の希望、今後の研修希望内容、その他自由記述である。

(倫理的配慮)

アンケート調査用紙の配布時に内容を説明、同意を得て実施した。記述については無記名とし、匿名性を尊重した。また、名簿の登録に関してはシステムができた場合には連絡後実施する旨を伝えた。

C．研究結果

福岡、大阪、福島、東京の4箇所で行った研修会に参加した209人を対象としアンケート調査を行った結果、166人(回収率79.4%)から回答を得た。そのうち会場別では福岡60人(36.2%)、大阪42人(25.3%)、福島18人(10.8%)、東京46人(27.7%)であった。（表１）

１．年齢

福岡会場では27～67歳（平均40.8歳）、大阪会場では27～73歳（平均42.1歳）、福島会場では24～69歳（平均47.0歳）、東京会場では26～73歳（平均43.0歳）であった。全体で

は24～73歳（平均42.6歳）であった。（表２）

2.　助産師業務経験年数

福岡では、5年未満21人(35%)、5～10年未満21人(35%)、大阪では、5年未満17人(40. 5%)5～10年未満14人(33.3%)、福島では、5年未満4人(22.2%)、5～10年未満2人(11.1%)、東京では、5年未満19人(42.3%)、5～10年未満15人(32.6%)である。福島を除くと、助産師としての経験年数が10年未満と回答した者が70%を占めている。（表3）

3.　業務休業年数

福岡では5年未満26人(43.3%)、5～10年未満9人(15.0%)、10～15年未満が10人(16.6%)、大阪では5年未満15人(35.7%)、5～10年未満6人(14.3%)、10～15年未満が10人(23.8%)、福島では5年未満が5人(27.8%)、5～10年未満3人(16.7%)、東京では5年未満18人(39.1%)、5～10年未満7人(15.2%)である。助産師としての休業年数が10年未満と回答した者は53,6%である。（表４）

4.　パート等で就業している業務内容

パート等で就業している場合の業務内容は、市町村の訪問指導.乳児健診、診療所での外来業務、産科以外のクリニックでの非常勤、看護学校・助産師学校の非常勤勤務、保健師として等様々な業務を行っている。（表５）

5）今回の研修会情報

今回の研修会受講のきっかけになった情報源は、日本助産師会の機関誌「助産師」から情報を得ている者が全体で44人（26.5%）である。次いで「知人より」「助産師会支部から」であった。会場別にみると、福岡は「知人より」が14人(23.3%)が最も多く、「助産師会のホームページ」、「機関誌」「マスコミ情報(新聞)」と続く。大阪は「機関誌」18人(42.9%)、「同窓会から」が16人(38.1%)である。福島は、「助産師会支部から」が8人(44.4%)、次いで「機関誌」が5人(27.8%)である。東京では、「機関誌」「ホームページ」がそれぞれ10人(21.7%)、「知人より」が9人(19.6%)である。（表６）

6）講習会の満足度について

①母子保健の動向と課題では、回答者133人で満足107人(80.5%)、やや満足24人(18.0%)、不満2人(1.5%)であった。②妊産婦のニーズと助産師の役割では、回答者135人で満足118人(87.4%)、やや満足16人(11.9%)、不満1人(0.07%)であった。③母乳と親子関係では、回答者141人で満足127人(90.1%)、やや満足14人(9.9%)であった。④最近の産科管理では、回答者133人で満足115人(86.5%)、やや満足16人(12.0%)、不満2人(1.5%)であった。⑤新生児の観察のポイント助産所業務ガイドラインでは、回答者146人で満足140人(95.9%)、やや満足6人(4.1%)であった。⑥助産師と産科医の連携では、回答者134人中満足111人(82.8%)、やや満足23人(17.2%)であった。⑦今後の活動について(ディスカッション)は、回答者118人で満足91人(77.1%)、やや満足25人(21.2%)、不満2人(1.7%)、⑧妊産褥婦の指導(演習を含む)はプログラムが3箇所でことなっている。⑨妊産婦の多様なニーズに対応するケアは、回答者114人で満足95人(79.8%)、やや満足19人(16.7%)であった。（表７）

7）受講後の評価、感想等自由記述の内容

講義の感想や評価などについて自由記述されたものを抽出し以下に示したが、現行の研修は概ね受講生によい評価をうけている。

＊母子保健の動向と課題

- 最新の母子保健の動向と課題など情報を得られた。
- 助産師としての役割や必要性を再認識。
- 内診問題など現場での問題などもっと詳しくしりたい。
- 国としての動向は理解できたが、身近な地域での動向も知りたかった。
- 病院の閉鎖や少子化に伴い、助産師として働く場所がなくなってしまうのではないかという

不安があったが、最新の情報や助産師の継続的支援の大切さをしり、視野が広がり様々な問題や課題に少しでも貢献できたらと前向きに考えられた。

＊妊産婦のニーズと助産師の役割

- 開業助産師の講義であり、地域での助産師の役割の重要性を感じた。
- 助産師の素晴らしさ、魅力を感じた。
- 今後の目標や自分ができることを考えるきっかけとなった。
- 地域貢献、地域に密着した具体的なケアを学べた。
- オープンシステムについての学びがあった。
- 助産師として専門性を再認識し、必要とされていることへの喜びと一方で責任も感じた。
- 妊産婦のニーズ、助産師の意欲があっても実際に仕事が出来る場が少ない現状、社会への働きかけも必要だが、行政ももっと積極的に助産師が活動できる場を作ってほしい。

＊母乳と親子関係

- 母乳栄養・母乳育児やカンガルーケアの重要性などについての学びができた。
- 知識の再確認、知識の学習とともに今後の学習意欲にもつながっている。
- 助産師として働くことも大切だが、母親として今しかできない子育てを心から楽しもうと思えた。（女性として、一人の人間として）

＊最近の産科管理

- 最新の知識の吸収、今までの知識の補足、再確認をするとともに、今後の学習意欲につながっている。
- 学びとなっているが、半面に臨床の恐さや現場に戻ることに不安を感じたという意見。
- 産科医不足、少子化等の現状から産科領域での必要な知識を学べた。

＊新生児の観察のポイント　助産所業務ガイドラインについて

- 多くの症例や新生児の観察のポイント、アプガールスコアの採点方法等現場で役立つことの学びとなった。
- 出生直後の話しが多くあったが、新生児訪問を対象にした話も聴きたかった。

＊助産師と産科医の連携

- 助産師と産科医との連携の重要性と難しさについて学べた。
- 助産所の助産師には参考になる講義という意見
- 嘱託医師からの話で、今後の自分の取り組むべき課題へのヒントとなった。
- 医師と助産師の連携は難しく課題は多も多い、今後の意識改革の必要性を感じた。
- 知識を更新することの重要性を痛感。
- オープンシステム、セミオープンシステムなど新しい形態の産科医療について知る事ができた。

＊今後の活動についてディスカッション

- 多くの人とディスカッションすることで、同じ境遇にいる仲間との意見の共有をするとともに、自分ができることを考え行動起こすモチベーションになった。よい刺激になった。
- 助産師に対するニーズが多いことは頭では分かっていてもなかなか行動にできない。
- 助産師としてまた活動したいと思っても、家庭と仕事の両立の壁があるという意見。（助産師自身も働く女性がかかえる同じような問題を抱えている）
- 意見の交換にはなったが、今後の活動についてどうしていくべきかまで話し合えなかったという意見。
- ディスカッションの時間が足りなかった。
- 様々な事情があり、職歴も年齢も様々な方が同じ助産師職として集まり意見交換できたことは、皆働く意欲があるのだと思え、勇気がでた。女性であるというハンディとも特性ともいえる、性の根本はやはり出産育児の問題が沢山ある。ブランクが会っても大丈夫、ブランクを作りたくない人でもどちらでもよいとなれば子

育ての中心を担う母性も父性に不満を抱かずにすむかもなど思った。
- 仕事にもどれなくて、惨めな思いをしていることや、またもし仕事に出て子どもに淋しい思いをさせたくないという思いを多くの人が感じているのを知りほっとした。
- 仕事から離れていたとしても助産師への熱い思いを聞けてうれしい。できれば早く復帰したい。

＊妊婦・産婦・褥婦の指導（演習を含む）
- 妊産褥婦が求めるニーズに対応した指導について学べた。
- 演習ではマッサージやアロマテラピー、東洋医学など現場で実践していることを学習、体験し、今後の活動へ役立たせたいという意見。
- 参加型クラスの持ち方など、考えるよい機会となった。
- 保健指導の重要性の再認識。
- 助産所の助産師の講義であり、教科書で学べないより実践的なケア内容を学べた。
- 自分が行ってきたケアの振り返りとなった。
  また、今後のやるべき事がわかった。
- 生き生きと活動している講師に刺激を受けた。
- 助産師の活動の場がいろいろあるということを知る事ができた。

＊妊産婦の多様なニーズに対応するケア
- 人生観、死生観など幅広く学んだという意見。
- 助産師として何かできるかもしれない、役立ちたいという気持ちになったという意見。
- 一歩踏み出す勇気をもらった。
- 助産師のやりがいを感じる事ができた。

＊その他気づいた点
- 研修会開催と学習する機会を得たことに対しての感謝の意見
- いろいろな場所で助産師の働く場所や役割は沢山あるということはわかった。しかし一方働く場所の情報不足やどう働きかけていったらいいか手段がわからず戸惑っている場合が多い。
- 今回の研修をきっかけにして、自分が今できることから少しずつやっていきたい。
- 助産師は支援する立場であるが、女性として支援される立場でもある。もっともっと働き易く変っていくこと、変えていくことも必要という意見。
- 託児所・サービスなどあるともっと参加しやすい。
- 助産師バンク設立への要望。
- 勤務助産師からオープンシステムの病院側を構築したいという意志を高めたという意見。
- 潜在助産師だけでなく、勤務している助産師にも聞いてもらいたい内容。
- もっと学ぶ機会を与えてほしい。
- 受講するまではブランクのことで自信のない不安ばかりが心の中にあったが、「助産師さんは必要とされている」「自転車に乗るようなものでまた乗れる」「いろいろな働き方がある」といわれ自分にも何かできそうな気がした。就職活動してみます。
- 仕事を再開するにあたり、感染についての不安、保険についての不安がある。
- 講習会をもっとＰＲしてほしい。

８）　希望就業先

139人から回答を得た。会場別では、福岡47人、大阪36人、福島13人、東京43人である。全体では、「診療所・産婦人科医院等」が68人(48.9%)、次いで「助産所開業」43人(30.9%)であった。会場別においても、「診療所・産婦人科医院等」での勤務希望が福岡25人(53.2%)、大阪19人(52.8%)、福島5人(38.5%)、東京19人(44.2%)である。（表８）

９）　報酬について

①月給については、最低金額として10万円、最高金額は50万円であった。仕事の内容にもよるという意見もあるが、20万～30万円の希望が多い。（表９）

②時給については、最低金額900円、最高金額5,000円である。1,500円～2,000円の希望が多い。やはり、月給と同様に仕事の内容による

という意見があった。（表10）

10）　今後の勤務形態希望

124人から回答を得た。常勤勤務希望は77人(62.1%)で、非常勤勤務希望は47人(37.9%)であった。会場別にみると、回答数、非常勤勤務希望、常勤勤務希望とそれぞれ、福岡では、非常勤勤務21人(45.7%)、常勤勤務25人(54.3%)、大阪では非常勤勤務7人(20.6%)常勤勤務27人(79.4%)、福島では非常勤勤務7人(77.8%)常勤勤務2人(22.2%)、東京では非常勤勤務12人(34.3%)、常勤勤務23人(62.1%)であった。（表11）

11）　今後、希望する潜在助産師研修での講習内容

今回の研修内容で概ね評価されたが、今後の要望として、最新医療情報や実技をふまえた研修が望まれた。特に助産や保健指導の具体的な展開や、助産所開業に向けての研修も望まれた。
（表12）

D．考察

潜在助産師の研修会参加者は、地域により少差はあるが10年未満の参加者が約30%であり、妊娠、出産、子育てのため、休業中であるが、いずれ就業したいという気持ちで参加している。潜在化の理由の多くは、妊娠、出産、子育てであるが、これらの多くは就業しながらの子育てはとてもできない職場環境にあるかと思われた。

また、業務休業年数は、10年未満であり、今後職場復帰する場合は研修会等を受けたいという意見もあり、就業中のブランクを埋めるためにも研修を受けたいと時に受けられるようにシステムとして整えていく必要がある。

今回の潜在助産師の研修会の受講のきっかけは、「助産師」の機関誌からということは、助産師として潜在助産師は職能団体に加入していることや、また、知人からの進めなどであった。ホームページ等で参加のきっかけとした者もいたが、今後は、地域の新聞等の活用を促しながら潜在助産師の発掘をしていく必要があろうかと思われた。

また、今回の潜在助産師の研修プログラムは、概ね研修生には満足のいく研修であったようである。母子保健の動向や妊産婦への保健指導につながるものは、助産師の役割を再認識するようであった。今後は、最新医療情報や実技を踏まえた研修が期待されていた。自信を取り戻して就業してもらうためにも、ブランクを埋めるための研修のあり方を考えていく必要があり、研修者のニーズを更に汲み取りたい。

研修後の就業については、診療所への勤務を約50%の人が考えまた、助産所開業等についても考えられている。これらのことを考えられたのは、研修会終了後の自由記述に多くの事が記されている。受講によって自らの潜在助産師が地域で、居住地に近い地域の診療所に就業し、地域の母子保健の一役を担うことを期待したい。また、診療所に就業した場合の報酬については、地域差、個人差もあり参考までに留めたい。

勤務形態希望では、常勤の勤務に就きたいとしている者がどの地域においても、半数以上あり、潜在助産師に情報を提供する方略を考えていきたい。

E.結論

1．１７年度潜在助産師研修会受講者は 209 人であった。
2．研修会参加者の年齢は 24～73 歳（SD=42.6 歳）、休業期間は 10 年未満が 53.6%であった。
3．研修会受講のきっかけは「助産師」の機関紙、知人よりであり、少数ではあるがホームページ等からの情報収集であった。
4．今回の研修に対して、プログラム内容ともに概ね満足していた。
5．研修後、診療所への就業について考えた者は受講者の約 50%あった。
6．今後の研修希望内容は本研修内容に加え、最新医療情報や助産の実技をふまえた研修を望んでいた。
7．潜在助産師に積極的に情報をすることにより就業促進が図れると思われた。

潜在助産師研修会（平成17年度　厚生労働省看護職員確保対策特別事業）

プログラム　福岡会場　　福岡県助産師会館　福岡市中央区平尾１－３－４１

10月15日(土)	9:00	9:30～10:30	10:40～12:10	13:10～14:50	15:00～16:30
	あいさつ	母子保健の動向と課題 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課	妊産婦のニーズと助産師の役割 むなかた助産院 賀久 はつ	母乳と親子関係 聖マリアンナ医科大学 小児科教室　堀内　勁	最近の産科管理 九州大学病院周産期母子センター　講師 佐藤　昌司
10月16日(日)	9:30～12:10			13:10～14:50	15:00～16:30
	1．新生児の観察のポイント（SIDSを含む） 2．助産所業務ガイドラインについて 阿南共栄病院 上田　隆			助産師と産科医の連携 池川クリニック 池川　明	ディスカッション 今後の活動について 助産師会理事 加藤尚美
10月17日(月)	9:30～10:30		10:40～12:10	13:10～16:30	
	妊産褥婦の指導 元　国立病院機構九州医療センター附属福岡看護助産学校 永山眞里子		妊産褥婦の指導の実際（演習） むなかた助産院 賀久 はつ	妊産婦の多様なニーズに対応するケア 三宅医院 三宅　馨	

大阪会場

日程　平成17年11月26日・27日・28日

11月26日(土)	9:00	9:30～10:30	10:40～12:10	13:10～14:50	15:00～16:30
	あいさつ	母子保健の動向と課題 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課	妊産婦のニーズと助産師の役割 多賀所産院 多賀佳子	ディスカッション 今後の活動について 助産師会理事 岡本喜代子	最近の産科管理 住友病院産婦人科　部長 志村　研太郎
11月27日(日)	9:30～12:10			13:10～14:50	15:00～16:30
	1．新生児の観察のポイント（SIDSを含む） 2．助産所業務ガイドラインについて 阿南共栄病院 上田　隆			助産師と産科医の連携 池川クリニック 池川　明	母乳と親子関係 大阪府立母子保健総合医療センター 北島博之
11月28日(月)	9:30～10:30		10:40～12:10	13:10～16:30	
	妊婦の指導（演習を含む） 京都大学保健学部 柳吉桂子		産婦・褥婦指導（演習を含む） 京都大学保健学部 柳吉桂子	妊産婦の多様なニーズに対応するケア 三宅医院 三宅　馨	

福島会場 ：コラッセふくしま（福島県福島市三河南町１番20号　JR福島駅西口徒歩３分）

12月10日(土)	9:00	9:30～10:30	10:40～12:10	13:10～14:50	15:00～16:30
	あいさつ	母子保健の動向と課題 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課	妊産婦のニーズと助産師の役割 埼玉県立大学 短期大学部 小田切房子	母乳と親子関係 大阪府立母子保健総合医療センター 北島博之	最近の産科管理 福島県立医科大学総合周産期母子医療センター 藤森敬也
12月11日(日)	9:30～12:10			13:10～14:50	15:00～16:30
	1．新生児の観察のポイント（SIDSを含む） 2．助産所業務ガイドラインについて 阿南共栄病院 上田　隆			助産師と産科医の連携 池川クリニック 池川　明	ディスカッション 今後の活動について 助産師会理事 岡本喜代子
12月12日(月)	9:30～10:30		10:40～12:10	13:10～16:30	
	妊婦の指導（演習を含む） 天使大学 園生陽子		産婦・褥婦指導（演習を含む） 天使大学 園生陽子	妊産婦の多様なニーズに対応するケア 三宅医院 三宅　馨	

東京会場

1月14日(土)	9:00	9:30～10:30	10:40～12:10	13:10～14:50	15:00～16:30
	あいさつ	母子保健の動向と課題 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課	妊産婦のニーズと助産師の役割 埼玉県立大学 小田切　房子	母乳と親子関係 聖マリアンナ医科大学 小児科教室　堀内　勁	最近の産科管理 植野産婦人科医院 院長　植野 信水
1月15日(日)	9:30～12:10			13:10～14:50	15:00～16:30
	1．新生児の観察のポイント（SIDSを含む） 2．助産所業務ガイドラインについて 阿南共栄病院 上田　隆			助産師と産科医の連携 日本赤十字社医療センター 杉本　充弘	ディスカッション 今後の活動について 日本助産師会理事 三井政子
1月16日(月)	9:30～10:30		10:40～12:10	13:10～16:30	
	妊婦の指導（演習を含む） 山本助産院 山本詩子		産婦・褥婦指導（演習を含む） 山本助産院 山本詩子	妊産婦の多様なニーズに対応するケア 三宅医院 三宅　馨	

「潜在助産師研修会」アンケート　　（社）日本助産師会　平成 18 年 1 月 14 日～16 日

今回の研修会についての皆様のご意見を頂き、次回からの企画等の参考にしたいと存じますのでよろしくご協力をお願いいたします。(※選択肢には○を付けてください)

1．あなたの居住地　（　　）都・道・府・県

2．あなたの年齢　（　　）歳

3．助産師としての経験年数は何年ですか。（　　）年

4．休業年数は何年ですか。（　　）年

5．現在、「勤務を始めたばかり」あるいは「他の看護領域」で勤務されている方は勤務形態や勤務している看護領域などについてご記入ください

（　　）

5．今回の研修会は何で知りましたか。

（　）機関誌『助産師』　　（　）助産師会ホームページ

（　）自治体の広報誌　　（　）知人より聞いて

（　）助産師会支部からのお知らせ【　研修会チラシ　・　メール　・　その他　】

（　）マスコミ情報【　新聞　・　ＴＶ　・　ラジオ　】

（　）助産師学校同窓会からのお知らせ

（　）看護協会・ナースセンターからのお知らせ

（　）その他【　　】

6．今回の研修会の満足度についてお教えください。その理由もお書きください。

	満足	やや満足	満足しない	理由
母子保健の動向と課題　（市川）				
妊産婦のニーズと助産師の役割（小田切）				
母乳と親子関係（堀内）				
最近の産科管理（植野）				
新生児の観察のポイント（上田）				

	満足	やや満足	満足しない	理由
助産師と産科医の連携（杉本）				
ディスカッション－今後の活動について（三井）				
妊婦の指導（演習含む）（山本）				
産婦・褥婦の指導（演習含む）（山本）				
妊産婦の多様なニーズに対応するケア（三宅）				

7．あなたが今後助産師として就業を希望する場合、勤務先は場所はどこですか。

（　　）助産所開業→（お産を扱う　・　乳房管理のみ　・　保健指導のみ　・　その他　）

（　　）助産所勤務　　（　　）病院　　（　　）診療所・産婦人科医院等

（　　）教育機関（助産師学校・看護教育）

（　　）その他　（　　）

8．給料はどのくらいを希望しますか。

月給　（　　）以上　　時給　（　　）以上

9．常勤で働きたいですか。非常勤で働きたいですか。

（　　）常勤　－希望時間帯を記入してください。（　　）

（　　）非常勤－希望時間帯を記入してください。（　　）

１０．助産師バンクの設立にむけて、登録名簿への記載をご了解いただけますか？

（　　）はい　　（　　）いいえ

※ご了解いただける方は別紙に連絡先をご記入ください。よろしくお願いいたします。

１１．潜在助産師を対象にした研修会ではどのような内容を希望しますか。

１２．その他、お気づきの点がありましたら何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました

表1　都道府県別アンケート回答者（人）

福岡会場（n-60）		大阪会場（n=42）		福島会場（n=18）		東京会場（n=46）	
千葉県	1	東京都	1	北海道	1	青森県	1
広島県	1	富山県	2	岩手県	2	福島県	1
山口県	1	石川県	1	宮城県	2	茨城県	1
福岡県	45	福井県	3	山形県	1	群馬県	1
佐賀県	4	岐阜県	1	福島県	11	埼玉県	7
長崎県	5	滋賀県	4	栃木県	1	千葉県	10
熊本県	1	京都府	4			東京都	13
大分県	1	大阪府	7			神奈川県	10
		兵庫県	5			福岡県	1
		奈良県	9			沖縄県	1
		和歌山県	4				
		高知県	1				
未記入	1	未記入	0	未記入	0	未記入	0

表２　年齢別アンケート回答者数（人）

年齢（歳）	福岡	大阪	福島	東京	合計
	N＝60(人)	N＝42(人)	N＝18(人)	N＝46(人)	N＝166(人)
20～24	0	0	1	0	1
25～29	9	2	1	8	20
30～34	8	6	2	4	20
35～39	14	12	2	8	36
40～44	9	6	2	5	22
45～49	7	7	2	4	20
50～54	2	3	2	3	10
55～59	5	3	4	4	16
60～64	3	1	0	4	8
65 以上	1	1	2	3	7
未記入	2	1	0	3	6
最低年齢	27 歳	27 歳	24 歳	26 歳	24 歳
最高年齢	67 歳	73 歳	69 歳	73 歳	73 歳
平均年齢	40.8 歳	42.1 歳	47 歳	43.7 歳	42.6 歳

表３　助産師業務経験年数（年）

経験年数（年）	福岡	大阪	福島	東京	合計
	N＝60(人)	N＝42(人)	N＝18(人)	N＝46(人)	N＝166(人)
0～4	21	17	4	19	61
5～9	21	14	2	15	52
10～14	8	2	3	5	18
15～19	3	3	2	3	11
20～24	4	2	3	1	10
25～29	0	1	0	2	3
30～34	2	0	2	1	5
35～39	0	1	1	0	2
40～44	0	0	1	0	1
45 以上	0	0	0	0	0
未記入	1	2	0	0	3

表４　業務休業年数（年）

休業年数(年)	福岡	大阪	福島	東京	合計
	N＝60(人)	N＝42(人)	N＝18(人)	N＝46(人)	N＝166(人)
0～4	26	15	5	18	64
5～9	9	6	3	7	25
10～14	10	10	3	3	26
15～19	6	5	1	3	15
20～24	2	2	2	3	9
25～29	1	0	0	3	4
30～34	0	0	0	0	0
35～39	0	0	0	1	1
40～44	0	0	0	0	0
45 以上	0	0	0	0	0
未記入	6	4	4	8	22
1 年未満	11	2	0	7	20

表５　現在パート就業者の業務内容

福岡会場 ・ 看護師として巡回健診非常勤 ・ クリニックで看護として勤務 ・ 産科診療所 ・ 自宅・出張にてアロマ・マタニティースクール ・ 自治体保健師嘱託職員介護保険課 ・ 市町村での乳児健診・訪問指導 ・ 市町村の乳児健診赤ちゃん相談 ・ 市町村の乳幼児健診・新生児訪問・育児相談 ・ 市役所の新生児訪問・なんでも相談 ・ 小児科で1～1時間30分程度 ・ 助産師学校教務助手実習指導非常勤 ・ 診療所でパート（助産師外来・乳房ケア） ・ 総合病院外来パート ・ 内科クリニック非常勤 ・ 乳幼児健診・更年期相談・母子何でも相談・ボランティアで子育てサロン ・ 福岡市急患センター非常勤 ・ 訪問指導・思春期相談・子育て関係講師 ・ 保健福祉センターにて訪問助産師 ・ 母乳育児相談・市町村乳幼児健診・母親学級 ・ 民間事業所での保健師看護師業務
大阪会場 ・ 12月から保育園にて（0歳児）働く予定。来年4月から大学の看護学部に3年次編入予定（と同時に助産師としてバイト予定） ・ 県内病院の日々雇用職員（平均5日間日勤） ・ 時分の時間の都合のつくときに町内の妊産婦新生児の家庭訪問指導 ・ 週3回パート。妊婦の保健指導。 ・ ショートステイ・デイサービスの施設にて看護師 ・ 助産師学校の教務助手（周2日） ・ 月に１～２会診療所にて助産師業務で当直 ・ 日勤（非常勤）産婦人科病棟 ・ 週2日（9:00～14:00）診療所 ・ 非常勤看護学校講師 ・ 保健センター健康増進課臨時職看護師 ・ 保健センター新生児訪問、健診の手伝い ・ 保健センターの訪問・健診、開業産婦人科パート ・保健センターの保健師の育休替で週の半分、助産師としての活動は新生児訪問、地域でお母さん教室、ベビーマッサージ、母乳育児相談、エアロビクス、出前講座命の話、更年期の話をしている。

福島会場 ・ 11 月から出張専門で出産育児相談室開室 ・ 助産師として保健所にて妊婦・育児・思春期教育、新生児訪問
東京会場 ・ 5～6 回/月看護師として老人施設でパート ・ 在宅看護支援事業所にてケアマネージャー。デイサービス担当。老人の健康チェックなど。 ・ 市の保健センターに登録 ・ 市役所の保健師（保健センターの産休保健師の代替要員） ・ 新生児訪問 ・ 月に４～5 回保健センターにて乳児健診、8 件前後新生児訪問、予防接種手伝いなど ・ 特別養護老人ホームの医務室 ・ 派遣会社登録し、看護師としてデイケアや民間救急車同乗など ・ 非常勤で看護学校教務助手 ・ 非常勤で心身障害児施設 ・ 保健師として行政にて結核患者支援看護（6～7 回/月）、乳児訪問指導（0～10 件/月）臨時職員として ・ 保健センターの新生児訪問

表6　講習会の情報源

会場	福岡	大阪	福島	東京	合計
回答数	60	42	18	46	166
1)機関誌	11 (18.3%)	18 (42.9%)	5 (27.8%)	10 (21.7%)	44 (26.5%)
2)HP	10 (16.7%)	1 (2.4%)	0	10 (21.7%)	21 (12.7%)
3)自治体の広報誌	8 (13.3%)	0	0	0	8 (4.8%)
4)知人より	14 (23.3%)	5 (11.9%)	2 (11.1%)	9 (19.6%)	30 (18.1%)
5)助産師会支部からの知らせ	6 (10.0%)	4 (9.5%)	8 (44.4%)	6 (13.0%)	24 (14.5%)
①ちらし	3 (5.0%)	2 (4.8%)	3 (16.7%)	3 (6.5%)	11 (6.6%)
②メール	0	0	0	3 (6.5%)	3 (1.8%)
③その他	1 (1.7%)	0	0	0	1 (0.6%)
6)マスコミ情報	11 (18.3%)	0	0	1 (2.2%)	12 (7.2%)
①新聞	8 (13.3%)	0	0	0	8 (4.8%)
②TV	4 (6.7%)	0	0	0	4 (2.4%)
③ラジオ	0	0	0	0	0
7)同窓会から	6 (10.0%)	16 (38.1%)	0	12 (26.1%)	34 (20.5%)
8)看護協会ナースセンターから	2 (3.3%)	0	3 (16.7%)	1 (2.2%)	6 (3.6%)
9)その他	2 (3.3%)	0	3 (16.7%)	4 (8.7%)	9 (5.4%)

表７　研修会の満足度

	満足	やや満足	不満	合計
①母子保健の動向と課題	107	24	2	133
②妊産婦のニーズと助産師の役割	118	16	1	135
③母乳と親子関係	127	14	0	141
④最近の産科管理	115	16	2	133
⑤新生児の観察のポイント・助産所業務ガイドライン	140	6	0	146
⑥助産師と産科医の連携	111	23	0	134
⑦今後の活動について（ディスカッション）	91	25	2	118
⑧妊婦・産婦・褥婦の指導	207	41	6	254
⑧妊婦・産婦・褥婦の指導（演習）	—	—	—	
⑨妊産婦の多様なニーズに対応するケア	95	19	0	114

表８　希望就業先　（重複回答あり）

会場		福岡		大阪		福島		東京		合計	
アンケート回収数		60		42		18		46		166	
回答数	未記入数	47	13	36	6	13	5	43	3	139	27
1）助産所開業		10 (21.3%)		15 (41.7%)		5 (38.5%)		13 (30.2%)		43 (30.9%)	
①お産を扱う		3 (6.4%)		2 (5.6%)		3 (23.1%)		1 (2.3%)		9 (6.5%)	
②乳房管理のみ		2 (4.3%)		5 (13.9%)		2 (15.4%)		8 (18.6%)		17 (12.2%)	
③保健指導のみ		2 (4.3%)		8 (22.2%)		1 (7.7%)		8 (18.6%)		19 (13.7 %)	
④その他		0		4 (11.1%)		0		3 (7.0%)		7 (5.0%)	
2）助産所勤務		16 (34.0%)		10 (27.8%)		1 (7.7%)		14 (32.6%)		41 (29.5%)	
3）病院		11 (23.4%)		6 (16.7%)		2 (15.4%)		10 (23.3%)		29 (20.9%)	
4）診療所・産婦人科医院等		25 (53.2%)		19 (52.8%)		5 (38.5%)		19 (44.2%)		68 (48.9%)	
5）教育機関		6 (12.8%)		1 (2.8%)		0		4 (9.3%)		11 (7.9%)	
①助産師学校		0		0		0		0		0	
②看護学校		1 (2.1%)		0		0		1(2.3%)		2 (1.4%)	
6）その他		15 (31.9%)		9 (25.0%)		4 (30.8%)		9 (20.9%)		37 (26.6%)	

表９　　希望の報酬額（月給）

希望の報酬額(月給)

	福岡会場		大阪会場		福島会場		東京会場	
回答者数(名)	20		12		8		16	
給料（万円以上）	10	2	10	1	20	1	10	2
	15	1	15	2	25	2	20	6
	19	1	20	2	24	1	25	4
	20	4	25	4	30	3	30	3
	25	5	30	1	仕事の内容による	1	50	1
	30	6	50	1				
	20～30	1	未定	1				

表10　希望の報酬額(時給)

	福岡会場		大阪会場		福島会場	東京会場	
回答者数(名)	19		13		0	30	
時給（円以上）	1,000	3	900	1		1,000	3
	1,200	2	1,000	1		1,200	1
	1,500	10	1,200	1		1,300	1
	1,800	1	1,300	1		1,500	9
	2,000	2	1,500	3		1,600	4
	1,500～2,000	1	1,700	1		1,800	3
			2,000	3		2,000	6
			1,500～1800	1		3,000	1
			1800～2,000	1		3,000～5,000	1
						20,000	1

表11　希望の勤務状態

	福岡会場（人）	大阪会場（人）	福島会場（人）	東京会場（人）
常勤	21	7	7	12
非常勤	25	27	2	23
合計	46	34	9	35

表12　今後希望する潜在助産師研修での講習内容

NST・超音波診断などの演習
アロママッサージ
いざ勤めた際に学ぶきっかけになるようなもの。
機器の使用の実技や分娩介助の流れなど
今回と同じような内容　今回の内容に加え病院での見学実習
ツボ　マタニティーヨガ　リフレクソロジー
母親学級の実際
院内助産所を開設するにあたっての企画書の書き方、プレゼンテーションの方法、などの実技
開業助産師の知恵　勤務助産師の生の声や日常の様子
開業助産師の話し
基本的なものの演習　妊産婦指導の実際　外来実技、保健指導、縫合の仕方
希望者に病院での研修（現状を知るために）
現在の産婦人科医療　乳房ケア（5）
山本先生のような助産師のライセンスをとってよかったと思える人からの講義
最新の医療知識（2）　社会の流れがみれるような情報　政策に関わっている方々の話
又頑張ってみようと思える熱血先生の講義　助産師を必要としている医師の話
乳房ケアなど実践・お母さん代表（熊手さんなど）からの呼びかけ
実技研修（2）　分娩介助演習（4）
妊産婦を取り巻く状況や動向・保健指導の実際・
就業の方向を具体的に示す・磨いた方がよいスキルへのアドバイス・ネットワーク作り
助産師の知恵袋・情報交換するためのネットワーク作り
助産手技・異常分娩への対応や処置・変化する医学知識
先輩助産師の講義・助産師教育者の講義・今回のような医師の話
超音波診断　救急蘇生器械の使い方の実際　分娩監視装置の装着の実際や波形の見方
内診について
妊婦健診、産褥婦の健診の実際（有料での実施でもよい）